

福祉施設へ車椅子3台 広島県配置医薬品連合会



講習会等での募金をもとに17年継続

社団法人広島県配置医薬品連合会(小島恒治会長)は七月七日、社会貢献事業の一環として恒例の福祉施設への車椅子寄贈を実施、今年度は東広島市西条町の障害者支援事業所・松賀苑を訪ね、車椅子三台を贈った。この車椅子寄贈は、薬事

講習会などで寄せられた会員からの寄付を資金として実施しているもので、今年で十七回目。広島県健康福祉局保健医療部業務課の幹旋により、「七夕の日」に施設を訪問し、贈呈式を行っている。

この日は広島県業務課の森木智男専門員とともに、小島会長をはじめ二反田正弘、小池一正、金田和宏

広島県配置連合会の車椅子贈呈式の様子
「東広島市「松賀苑」

門那良三の五氏が松賀苑を訪問。午前十時から贈呈式に臨み、森木県業務課専門員から広島県配置医薬品連合会の紹介とともに車椅子寄贈の経緯について説明のあと、小島会長があいさつし、「この車椅子は広島県内で置き薬業を営む者が毎年、講習会などの行事のたびに会員に募金を募り、平成六年から続けています。営業地域である広島県の皆様に感謝の気持ちを込めて毎年七夕の日に車椅子を贈っています。どうか役に立ててください」と述べた。

謝の言葉が述べられ、記念撮影を行って、贈呈式を終えた。

そのあと、今谷理事長の案内で施設を見学。同施設では、六十名の入所者がパソコンを使い印刷の仕事や機械部品の組み立てなどを

行っており、最新の印刷機械の前では「医薬品関係や団体の印刷物なども引き受けますので、ぜひ依頼下さい」との説明も受けた。

一行は午前十一時過ぎ、理事長はじめ職員の見送りを受けて施設を後にした。